

ベトナムのZ世代がさらなる成長の鍵を握る！ホーチミン最新動向

ホーチミンデスク 浅井 崇氏

アフターコロナのベトナム経済状況

2022年初旬にはコロナ禍を終えていたベトナムは、経済成長率も早々に回復すると言われてきましたが、2023年の経済状況は実際どうなっているのでしょうか。様々なメディアにおいて、世界的な需要変動で製造業の業績が悪化しているとか、数十年にわたり成長を続けてきた不動産業界でも景気が悪化していると報じられています。米中関係の影響によるポストチャイナ、もしくはチャイナプラスワンとしてのベトナムの足元の情勢が気になるところです。

人民委員会によると、ホーチミン市の第1四半期の経済成長率は0.7%であり、第2四半期の5.87%と合わせて上半期は3.55%になる見込みとされています。セクター別では、製造業と建設業の落ち込みがひどい一方、サービス業の第2四半期は7.6%と高成長を達成することになりそうです。つまり、コロナ禍からの世界情勢の影響で製造業輸出の需要が低下し、それにより国内の建設業景気も低下しました。また、昨年度からの金利上昇も相まって不動産業に影響が出ていると考えられるのではないのでしょうか。

Z世代が作り出す街の賑わい

ただ、ホーチミンで生活していて日々感じることは、やはり街がとても華やかで、景気が悪いようには思えないことです。先の人民委員会の数字でも小売や観光の売上が大幅に増加しており、企業とホーチミン市が実施した様々なプロモーション活動が観光需要の喚起に大きく貢献したとされています。

実際、街のいたるところで外国人観光客の姿が見られるようになりました。日本製品の販売も活発であり、日本人街のレタントンには日本人以外の人たちも多く訪れています。



たくさんの人で賑わう夜のグエンフ工通り

ホーチミンの街の賑わいや流行は、2000年以降生まれのいわゆるZ世代が牽引しています。特にホーチミン生まれの人たちは、生まれたときから実質の市場経済に触れてきました。デジタルネイティブで、インターネットに対する当局の規制が無くなった時代を生きてきたので、海外の情報を当たり前のように素早くキャッチしています。そんな若者たちが日夜街に繰り出しているの

すから、街が活性化しないわけがありません。そこにインバウンドの旅行者も合わせて、より一層街中を明るくしているのでしょう。

そうなるにつれて、どんどん新しい物を取り入れて古き良き文化を失くしてしまうのではないかと懸念が生じますが、今のホーチミンの若者の流行には、温故知新というか、昔ながらのベトナム文化を継承するような感じが見受けられます。夜になると屋台のカフェやバーが路上に立ち並び、人が集まるホーチミン中心部の至るところで若者のグループが地べたに座って談笑しています。また、昔からベトナム人の娯楽の一つだったビリヤードが昨今とても流行っていて、市内各所にビリヤード店が新規オープンし



路上カフェで談笑するホーチミンの若者たち

ています。長年この国に住んでいる者として、こういうベトナムらしい光景はとてもうれしく感じます。

そして、ホーチミンはベトナムのスタートアップエコシステムの中核ですが、Z世代の活躍によってその成長が加速しています。ソーシャルメディアやインフルエンサーマーケティングを駆使して最新の情報を発信しています。こういった世界的にも先進的な業界での経済成長が期待できるのも、若者が活躍するベトナムならではの魅力かもしれません。

訪越日本人増加への期待

ところで、こんな活気あふれるベトナム市場においての日系企業や日本人の動向はどうでしょうか。遅ればせながら、日本もようやくコロナの規制がほぼ撤廃され、日本からの出張者や旅行者も増えてきました。日本企業の進出も年間300社以上といったコロナ前の水準に戻ってくれることを期待しています。ホーチミン兵庫県人会も130人を超えていて、定期的な活動を再開しています。兵庫県からのホーチミンへの視察や進出、取引などをぜひ検討してみてください。



ホーチミンに訪れる観光客

ひょうご海外ビジネスセンターは、世界11カ所に海外展開現地相談窓口として「ひょうご国際ビジネスサポートデスク」を設置しています。本通信は、毎月1回、各デスクから寄せられる現地トピックスを順にお届けするものです。

【発行 公益財団法人ひょうご産業活性化センター ひょうご海外ビジネスセンター】